

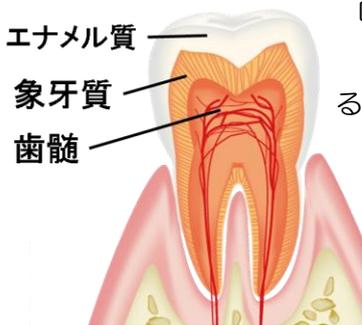
# れんけい君

発行元：地域医療連携室

## 虫歯について考える ① ～なぜあんなに痛い??～

舞鶴共済病院 歯科口腔外科

### ① ～ 歯とは？虫歯とは？なぜ痛みが出るのか？ ～



口の病気で真っ先に思いつくものの一つに虫歯があるかと思います。

そもそも、虫歯というのはミュータンス菌やソブリヌス菌といった虫歯菌によって引き起こされる細菌感染です。さらに口腔内の細菌が混ざり合って複合感染している状態が虫歯です。

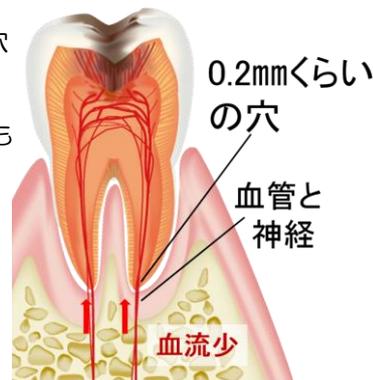
歯は、一番外側にエナメル質、その内側に象牙質、更にその中に神経や血管が詰まっている歯髄があります。歯髄は生きた組織ですが、エナメル質や象牙質は爪と同じ血の通っていない死んだ組織で、ひとたび虫歯で穴が開いたら基本的に治ることはありません。歯に似ていますが、骨は血の通った生きた組織なので、折れても治癒します。しかし、歯は自然には治癒しないのです。

ですので、歯科医院に行くと、バイ菌の巣である虫歯の部分を取り取って、詰め物等をして治します。では、その虫歯が歯髄に近づいてくるとどうなるか。あのいやーな、ズキズキした痛みが出てきます。歯髄は先程述べました通り生きた組織です。生きた組織が虫歯菌に蝕まれて痛くなっていくのです。

### ② ～ 歯髄は弱い<sup>しずい</sup>が太い神経 ～

歯髄というのは、なかなかやっかいな組織で、歯の根の先端にある直径 0.2 mm位の小さな穴から細い血管が入ってきていて、この細い血管だけで歯髄を養っています。

体の抵抗力というのは、血液によって成り立っています。血流の豊富なところは、抵抗力も強くなります。例えば腕の皮膚に怪我をしたとして、万が一細菌感染をしたとしても、四方八方から流れ込んでくる血液の免疫細胞により駆除されて通常治ります。ですが、歯髄は血流が非常に乏しいので、非常に弱いのです。去年の楽○イーグルスよりもっと弱いです。虫歯が歯髄まで及び、バイ菌が歯髄の中に入ってくると、ほぼ 10 戦 10 敗で負けます。この負けた結果、歯髄の中にバイ菌が増殖し歯髄が死んでしまう過程が非常に痛いのです。しかも歯髄に入ってくる血管は細いのですが、神経は、Aδ線維という太くて立派な神経が入っているのをおさら痛く感じます。このバイ菌により歯髄が侵されている状態を「歯髄炎」と言います。



### ③ ～ 「歯髄炎」不幸な痛み ～

炎症が起きると通常赤く腫れますが、歯髄炎も同様です。しかし、歯という殻の中に閉じ込められているので、ぎゅーぎゅーに圧力が高まって、更に痛みが増強します。歯髄炎の時の応急処置としては、まず、歯を削り圧抜きをしてやるという方法があります。これにより痛みが少し楽になります。また、抜髄（歯髄を抜くこと）すると更に楽になることが多いです。俗に、「歯髄炎」は、「お産」、「くも膜下出血」の次に

痛いと言われることがあります。10 年程前に、出産直後の褥婦が、歯髄炎の激しい痛みで急患として受診されたことがあります。処置をして痛みを取った後、「お産とどっちが痛かったですか？」と尋ねたことがあります。その方は、「歯の方が痛かった！」とおっしゃっていました。「お産は幸せな痛みだけど、歯の痛みは不幸な痛みだから。」だそうです。皆さん、歯を大切にしましょう。



次号「虫歯について考える②」に続く！！（5月発行予定）